



一人は皆のために 皆は一人のために

わだち

福脊連通信

2026.7

No. 224

編集：福岡県脊髄損傷者連合会 〒 820-0303 福岡県嘉麻市中益 879 TEL 090-1346-0093



「ワンビル」6階に設置された「鯨の目」シリーズの作品（大小島真木氏の代表作）

今回視察した「ワンビル」には、お買い物や食事だけでなく、アート作品にも出会うことができます。

- 「第48回の福脊連総会」報告…………… 2 P
- 自立生活センターこころ講演会報告 …… 3 P
- 「ワンビル」の視察報告 ……………… 4 P
- 最近、交通機関を利用して感じる事… 6 P
- 新入会員投稿・編集後記 ……………… 8 P



「第 48 回の福脊連総会」 報告

支部長 大里 恵

2026 年 6 月 13 日（土）春日市のクローバープラザで、「第 48 回の福脊連総会」が行われました。参加者は会場 5 名（大里・東さん・根本さん・堀合さん・富田さん）、Web 参加者は児玉さん 1 名、合計 6 名でした。委任は 18 名で総会は成立しました。今回は Web 会議準備に堀合さんにご尽力いただき、会場と Web による本格的なハイブリッド会議を行うことができ、たいへん有意義な総会となりました。

会員の皆さんに送りました議案書に沿って総会を進め、冒頭、（公社）全脊連の元代表理事・大濱氏が昨年亡くなられたので、黙祷を行いました。議長に根本さんが選出され、議事に入り 1 号議案から 5 号議案の進行をお願いしました。約 2 時間の総会でしたが、全容は議案書を見ていただければわかりますが、特記事項として「九州ブロック会議佐賀県大会」参加協力をお願いと、参加される会員・家族の方への助成を行うことを決定しました。

1. 前日から宿泊する場合、宿泊費の助成一人 1 万円（夫婦の場合×2 名分）支給し、夕食代は九州ブロック会から支給します。総会の時の弁当代・交通費往復（ガソリン代・有料道路代・駐車場代）も支給しますので、参加者の負担は一切ありません。

2. 近場なので、当日参加の場合でも交通費往復（ガ

ソリン代・有料道路代・駐車場代）支給し、総会時の弁当代も支給します。当日参加者の負担も一切ありません。

よって今年度の「九州ブロック会議佐賀県大会」参加予算も現状より増える予定です。佐賀支部は会員 3 名前後で、できたばかりの新しい支部なので、隣の福岡県支部としても全面協力することになっており、「九州ブロック会議佐賀県大会」を機に佐賀県支部の会員獲得や活動推進の力になればと考えています。福岡県支部会員皆さんの負担はありませんので、遊びがてらでもかまいませんので、たくさんの参加していただき、「九州ブロック会議佐賀県大会」参加協力をお願いいたします。参加申し込み内容が決まりましたら改めてご連絡いたします。

議案について全て承認となり、議事がすべて終わった後、自立生活センター・エコー代表でもある児玉さんに、ピアカウンセリングの導入の講演いただき、参加者みんなで意見交換し、その後、全脊連 PR 動画をみて、ピアカウンセリング研修会を終えました。今回初めての取り組みで、とても有意義なピアカウンセリング研修会となりました。

来年度の総会にはもっと多くの会員の皆さんに参加していただき、交流会を含めた温かい総会したいと思います。



自立生活センターこころ講演会報告

九州ブロック担当理事／福岡県支部・支部長 大里 恵

全国脊髄損傷者連合が後援している長崎県自立生活センターこころ代表、山口俊也さんたちが企画した講演会に参加してきました。講演会の冒頭、今回の講演会や長崎支部設立に向けて尽力された大濱さんへの黙とうが行われました。詳しい講演のプログラムは、別紙のパンフレットをご参照ください。

会場には100名近くの参加者が集まり、大盛況でした。最重度の当事者をはじめ、重度障害児の親御さんたちも沢山参加されていました。まず、鹿児島県のCIL ひかり代表川崎良太さんの自立生活へ向けての困難な話や面白エピソード、そしてあちこちに引っ越しされ、結婚もされたことや、いろいろな経験を経て今に至ることを聞かせていただいて、困難さを織り交ぜながら笑いも交えて楽しく拝聴しました。

そしてCIL 小平理事の新井智さんの重度障害者が自立に向けて取り組みや、自立生活制度の改革や専門的な話も詳しく聞けて、私の知らない話ばかりで、とても勉強になり、長崎まで行った甲斐があったと感じました。次に長崎自立生活センターこころの山口さんの主治医、むらかみ小児科医院の神村直久先生の話や関係者の話など、いろいろな人たちの協力、そして本人の

『どんなに重度な障害があっても自分らしい暮らしはできる』
～自立生活の実践と、その先に広がる可能性～

自立生活講演会 in 長崎

2026年1月18日(日)
13:00～16:30 (開場12:00)

『重度の障害があったら施設や病院で暮らすしかない…』
そう思っていないですか？

講演の障害があっても、重度障害者施設を利用して生活を受け、地域で暮らし暮らすことができます。
本講演会では、自立生活の実践者や専門家の経験・知見を通して「地域で暮らす権利がある」ことを伝え、重度障害者やその家族、支援者に希望や勇気を与えます。

会場 出島メッセ長崎
定員 100名 (事前申込制・参加費無料)
参加費 無料
自立生活実践者による講演、質疑応答や制度について

登壇者

山口 俊也 (長崎県CILこころ代表、重度障害者施設利用者、自立生活実践者)
川崎 良太 (鹿児島県CILひかり代表、重度障害者施設利用者、自立生活実践者)
新井 智 (CIL小平理事、重度障害者施設利用者、自立生活実践者)
神村 直久 (むらかみ小児科医院院長、医師、重度障害者施設利用者、自立生活実践者)
大里 恵 (九州ブロック担当理事、福岡県支部長、重度障害者施設利用者、自立生活実践者)

ファシリテーター

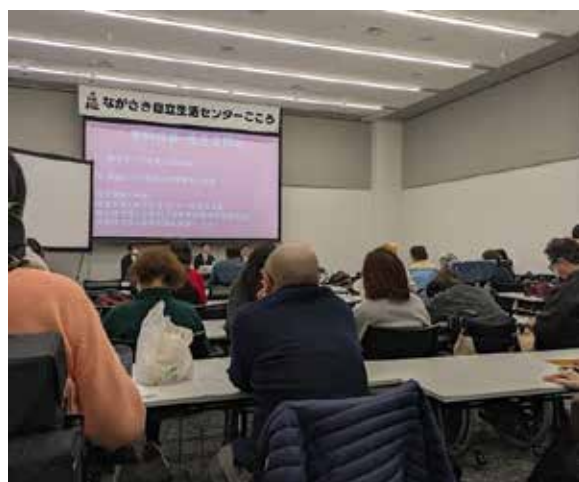
山口 俊也 (長崎県CILこころ代表、重度障害者施設利用者、自立生活実践者)
川崎 良太 (鹿児島県CILひかり代表、重度障害者施設利用者、自立生活実践者)

～お申し込み方法～
QRコードを読み取り
必要事項を記入して
お申し込みください

主催・お問い合わせ
ながさき自立生活センターこころ
長崎市博心6丁目2-8 0101 0970-4710-7108
info@cil-nagasaki.org

努力により、自立生活を勝ち取ったそのバイタリティな生き方に感銘を受けました。ある程度分かっていたとはいえ、脊髄損傷者とあまりにも違った環境と生活の状況を聞き、改めて教えさせられたし、とても有意義な講演会でした。

質疑応答では多くの障害児の親たちのこれが



らの子どもたちの生き方について、どのようにしていけばいいのか？など重要かつとても大切な質問がたくさんあり、時間が足りないくらいでした。

最後は安藤事務局長の挨拶と総評となり、今回の講演会が大変盛況かつ重要であったことを述べられ、講演会が無事終了することとなりました。なお、長崎県自立生活センターこころ代表、山口俊也さんは3月22日の理事会で、長崎県

支部設立を明言され、今後九州ブロック会の長崎県支部として活動されることとなりました。

会 場 出島メッセ長崎 107 会議室

時 間 2026 年 1 月 18 日（日）13 時～16 時 30 分

講演会 「重度の障害があったら施設や病院で暮らすしかない・・・そう思っていないませんか？」

「ワンビル」の視察報告

東 聖二



2026 年 3 月 5 日、昨年 4 月に開業した「ONE FUKUOKA GLDG.」通称「ワンビル」にて、移動円滑化評価会議による現地視察および意見交換会が実施されました。

当日は、バリアフリープロモーター兼有識者、交通事業者、ホテル関係者、障害当事者団体、行政機関など 44 名が参加しました。

6 階の会場に参加者が集まり、まず西鉄担当者からワンビルの概要とバリアフリーの取組みについて説明がありました。

「ワンビル」は、福岡市が進める官民連携の再開発プロジェクト「天神ビッグバン」を象徴する建物です。福岡ビル、天神コアビル、天神ビブレの 3 つのビルを解体・一体化し、大型複合ビルとして生まれ変わりました。

今回の視察では、こうした都市再開発において「誰もが利用しやすい空間づくり」がどのように実現されているかが大きなテーマとなりました。

説明終了後、参加者はグループに分かれて視察を行いました。

まず、19 階ホテルのバリアフリールームを確

認した後、地下 2 階へ移動。地下街・地下鉄との接続部の傾斜を体験し、地下通路を歩いて 1 階へ。1 階周辺道路の状況なども確認し、視察を終えました。

その後、意見交換会が行われ、次のような意見や提案が出されました。

【地下街・地下鉄との接続部分】

「ワンビル」と地下街や地下鉄との接続部分は、幅も広く傾斜が非常に緩やかで（勾配 1/25）、上肢に障害のある車いす利用者もスムーズに移動することができました。



【ホテル】

・バリアフリールームが満室の場合でも一般客室で宿泊できるよう、扉幅の確保や段差の解消、手すりの設置など、ユニバーサルデザインの導入が求められました。

・バリアフリールームには、家族や介助者や介助者のためのベッドも配置したほうがいい。
・浴室やトイレのスペー



スは少し狭いと感じる意見もありました。
・ハード面の改善が難しい箇所は、人的支援などソフト面を充実させることも必要。



【サイン・表示案内】

・サインはデザイン性に優れているものの、少し見づらい印象がありました。突出しサインそのものの明瞭さ、大きさなどを工夫すると安心して移動できると感じました。
・各階のトイレ前にある混雑状況を示す電光掲示板は便利でした。介護ベッドの有無などの設備情報も表示されると、より使いやすくなるのではないかという意見もありました。



【バリアフリースイートイレ】

・バリアフリースイートイレは、各階に1箇所設置されています。今回は視察できませんでしたが、1階にはユニバーサルシート（介護ベッド）が整備されています。
・当日の意見ではありませんが、多目的トイレは利用が集中しやすいため、特に利用者が多い1階に複数設置したり、一般トイレ内にも広めで手すり付きの個室を設けたりして利用を分散させれば、待ち時間の緩和につながると思います。



【歩車道境界ブロック】

・「ワンビル」前の歩車道境界ブロックは視覚障害者にとって境界が認識しやすくなっている一

方で、車いす利用者の中には（排水のために必要な）勾配が使いづらさにつながる可能性もあると感じました。



意見交換会では、個別の課題だけでなく、次のような意見も出しました。

・計画段階から当事者が参画できる仕組みが保障されると良い。
・バリアフリーは施設ごとに取り組むのではなく、施設どうしをつないでいく仕組みとして、規格として共通化しておくことが必要。

今回、はじめて「ワンビル」を視察しましたが、全体的にゆったりしたスペースで移動しやすい空間でした。意見交換会では、様々な意見を聞くことが出来て、貴重な学びとなり今後に活かしていきたいと思います。

.....

昨年、当事者参画のガイドラインが策定されましたが、まだ十分に周知されていないのが現状です。これからも各地で実績を積み重ねながら、当事者参画の取組みを広げていくことが大切だと思います。

先日、地元の新庁舎建設に向けて、障害者団体と行政との意見交換会に参加しました。その結果、障害者用駐車場の台数増加など、私たちの要望を基本設計に反映していただくことができました。

今年度は、いよいよ実施設計の段階に入りますが、利用者の声が反映されるよう、引き続き要望活動に取り組んできます。



最近、交通機関を利用して感じること

根本 秀雄

私自身は福岡市内在住、T6 以下の脊髄損傷者で、現在、車いすで自家用車は持っておらず基本介助なしで行動しております。タクシーそのほか交通機関を利用して感じていることを述べたいと思います。

■タクシーの利用

普段会社勤めをしており、毎日タクシー通勤をしています。最近ではほとんどセダン型のコンフォートでなく、JPN TAXI（ジャパンタクシー）がほとんどになっています。一応、高齢者、妊娠中や子供連れの方など、さまざまな人が利用しやすいユニバーサルデザインの新型タクシーと謳っています。スロープを設置して車いすでそのまま乗車できるようですが、その準備に慣れているドライバーでも 15 分は必要と聞いています。私の通勤の乗車時間は大体 15 分で車いすの座面高さから 10cm 以上高い客席に何とか今は乗り移っています。スロープを準備してもらってもいいですが、準備時間を考えると多少無理しても直接座席に乗ってしまいます。ユニバーサルデザインを謳っていますが、自分にとってはちょっと乗りづらさを感じています。



■JR 新幹線の利用

大阪ぐらいまでなら新幹線が有効な交通手段と考えられます。身障者割を適応して車いす専

用席を予約するには、身障者専用の NET 予約システムで予約を行い、乗車日の前日までに最寄りの駅まで行き、みどりの窓口に並んでチケットを買う必要があります。もう少し簡略化できないかと思います。

■東京での交通機関の利用

地下鉄はかなり細かく交通網が張り巡らされており、これを利用するのが有効と考えられます。あらかじめ乗る駅でどう行きたいか伝えておくと各駅で乗車補助の対応してくれるので非常に助かります。アプリ、例えば「えきすぱーと」など参考にしてもよいし、乗車駅で駅員に直接相談したりすれば、より適切なルートを教えて貰えたりします。JR についても対応してもらえますが、手伝いを必要とする人の数が多いのか、改札で 15 分程度以上は待つことになるので余裕をもった予定を組んだほうがいいと思います。大阪や神戸でも JR を利用しましたが、それほど待った記憶がないので、東京特に山手線の駅は待ち時間を覚悟したほうがいいかもしれません。結論としては地下鉄を大いに利用することをお勧めします。ただ、東京の場合、地名に赤坂などとあるように坂が多く地図アプリでは分からないことがあるので特に初めて行くところは注意が必要です。

■フランスでの交通機関の利用

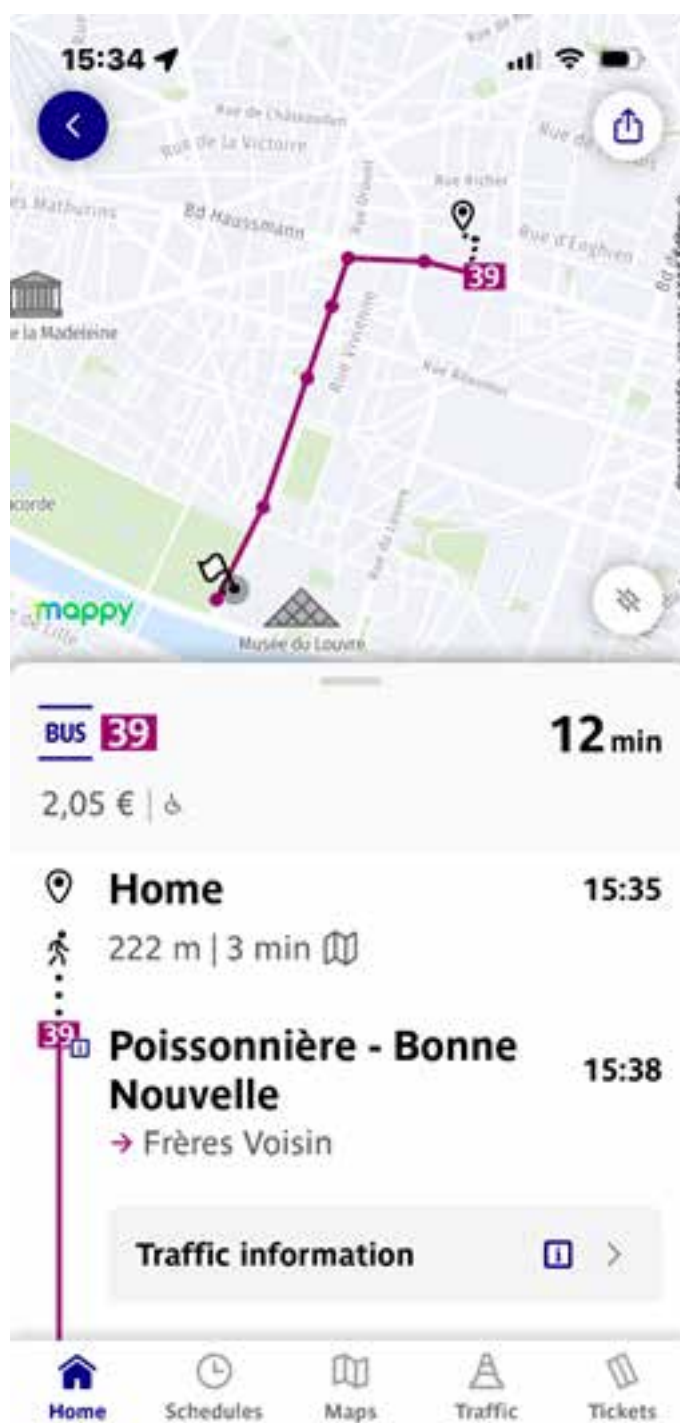
昨年フランスに旅行しましたが鉄道、地下鉄は利用しなかったもので、利用したバスとウーバーについて話します。ただ地下鉄は、ほとんどバリアフリー化されていないのが現状です。どういう理由か明確にはわかりませんが、バリアフリー化対応がかなり難しいと聞いています。バス利用では、スマホアプリ「ボンジュール

ル RATP」を利用すると車いす対応かどうかや待ち時間や乗り継ぎルートがわかるので重宝しました。ワンマンバスなのですが、写真のように自動でスロープが出てくるのであまり余計な時間をかけることなく乗ることができます。10回以上乗りましたが、車いすの方に1回ぐらいしか出会わなかったので利用者は少ないかもしれません。ウーバータクシーの車種はトヨタのC-HRが多く、座面が高いので、介助者がいればいいですが、単独で乗れるかどうか心配なら「介護用のタクシー」を予約する方がいいと思います。ウーバーは目的地までの料金が乗る時点で決まっているので、ドライバーとの料金のやり取りがなくトラブルのリスクを回避できます。パリ市内観光でパンテオンやモンマルトルの丘周辺に行かないのなら、道は石畳とかあまりなく比較的平坦なので、そのまま車いすで観光するのもあります。



どこのバス乗り場も道路面より15cmぐらい上がっており、ワンマンバスの運転手に車いす使用者が手を挙げると、スロープを出してくれます。

スマホアプリ「ボンジュール RATP」の画面
ホテルからルーブル美術館を検索



新入会員投稿

迎 政子

この度、入会しました迎政子です。

私が、脊損になった理由

あの日、忘れもしない昭和 55 年 12 月 11 日。みぞれの日でした。何を思ったのか、4 階のベランダから落ち、腰に激痛が走りました。

脊髄損傷と自覚するまで、長い時間がかかりました。

ある日、福岡市東区福祉課の障がい者の手続き時、担当の方が石井さんで、今は亡き五十里さんに紹介され脊損連合会に入会となりました。

車椅子の利用は、もう 44 年となります。

五十里さんから車の運転免許取得をすすめられ、次々と仲間から車をいただき、仕事を紹介いただきました。

無年金者でしたが、老齢厚生年金を受けることが出来ました。

又、ゲートボールも会員の方に北九州まで乗せていただき、楽しませてもらいました。北九州の

会員の方と一週間に一度のお喋りも弾みました。

昨年の総会・ブロック総会

乳がん・足首骨折・肩腱板断裂・感染症と入院となり出席できませんでした。

今は亡き先輩を見習って、出来るお手伝いをしたいと思っています。お互いの脊損の情報交換があれば、寂しい人生も楽しい人生になると信じております。



会費納入のお願い

福脊連の活動は皆様の会費で支えられています。

会費の納入をよろしくお願いいたします。

【正会員】 3600 円

【賛助会員】 2000 円

各会員の年会費は、下記の口座へお振込み下さい。

■郵便振替

口座名：福岡県脊髄損傷者連合会

口座番号：01760-3-28925

■銀行振込

ゆうちょ銀行 一七九店

当座 0028925

編集後記

梅雨も明け、いきなりの猛暑到来で体がついていきませんが、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

先日、札幌で開催された全国大会に Zoom で参加しました。

大会中は、「大濱さんには、とてもお世話になった」「遺志を受け継いでいきたい」など、大濱さんを偲ぶ声が数多く聞かれました。同じ障害を持つ仲間だけでなく、政治家をも変えてきた大濱さんの存在の大きさを改めて感じた大会でもありました。

これからは、いよいよ夏本番です。熱中症にお気をつけてお過ごしください。(H)